

## 広域景観の計画考想のための基礎的調査—福岡市東部と近隣市町の事例—

九州産業大学 学生会員 ○菊池勇人 九州産業大学 正会員 山下三平  
九州産業大学 非会員 日高圭一郎 九州産業大学 非会員 山口達也  
九州産業大学 非会員 橋口健太 九州産業大学 非会員 鶴田大樹

### 1. はじめに

景観法に基づく景観計画区域は、都市計画区域を超え、広く自然公園地域を含むことができる広域性に特徴がある。しかし一般に、景観行政団体の行政境界に計画区域がとどまることが多い。この点で、一連の地形的特徴がある複数の市町にまたがる広域景観の計画は課題を残している。

そこで本研究は立花山を“ランドマーク”として共有し、唐津街道が“パス”として通過し、楯の松原が“エッジ”としてきわだつ福岡市東部と近隣市町を対象として、計画を考想する基礎的調査を行ったので報告する。

### 2. 研究方法

#### (1)対象地域

立花山は、新宮町・久山町・福岡市東区にまたがっており、標高367mで筑前名山の1つである。玄海の海上からも眺望ができ、海陸交通の目印ともなっている。手軽なハイキングコースとしてたくさんの人に親しまれている。また、この地域には唐津街道と楯の松原といった長く連続する自然的・歴史的資源が多数残されている。

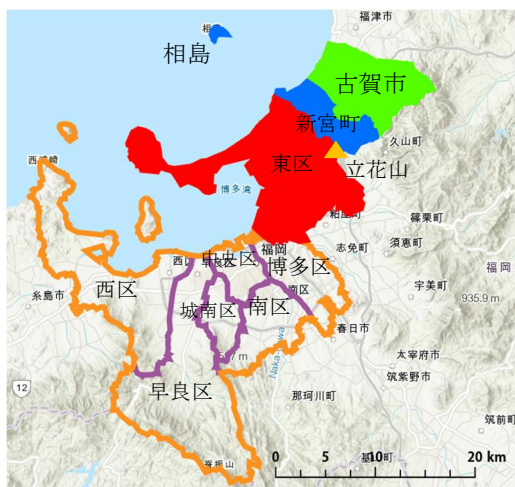


図-1 対象地域 (ArcGIS より作成)

#### (2)研究方法

そこでまず、立花山の眺望を唐津街道、新宮ウォーキングコースを中心に現地調査する。

唐津街道は、江戸時代に整備された玄界灘沿岸を通る街道で、青柳宿や太閤水が拠点として親しまれている。新宮ウォーキングコースとは、九州観光推進機構が推薦するトレッキングコースプラン「九州オルレ」<sup>1)</sup>の「福岡・新宮コース」に含まれる。

なお、再生可能エネルギーの1つである太陽光パネルが、唐津街道の近くに設置されていることが確認されている。そこで、本地域の太陽光パネルの分布状況についても併せて調査する。

### 3. 結果

#### (1)立花山

『景観の構造』<sup>2)</sup>によれば、山の眺望に最適な仰角は8~10°である。そこでこの範囲の仰角が望まれる視点場の範囲を算出した。その上で現地を踏査し、最適な5地点を確認し、GIS上で表記した(図-2)。その箇所・視点場からの見えを画角約60°で撮影した(図-3、4)。

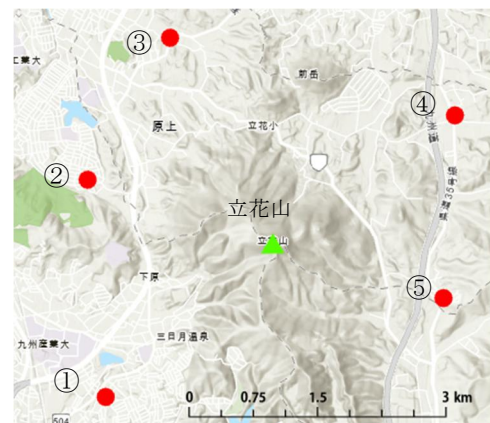


図-2 立花山視点場(ArcGIS より作成) ● 視点場



図-3 太閤水(図-2の③) 図-4 工場地帯(図-2の⑤)

5地点の中で、太閤水は、九州を平定した豊臣秀吉が大阪への帰路の途中に茶会を行った場所であり、良

い水が湧出する。ここからはほかの4地点に比し(図-4)、立花山の眺望を損なうものが少なく、歴史的拠点としてだけでなく、重要な視点場として価値が高いことが分かる。

**(2)新宮ウォーキングコース**

福岡・新宮コースには5つのウォーキングコースがあり、それぞれ新宮の魅力である太閤水、新宮海岸などを含むコースである。全てのコースを踏査して立花山の眺望が望める地点を確かめた。その結果、Aコースの太閤水、Cコースの西鉄新宮駅、Eコースの展望公園が抽出された(図-5、表-1)。しかし、山の眺望という観点からは、仰角が適切なのはAコースの太閤水に限られた。コースの設定に立花山の眺望が十分反映されていないと推察された。



図-5 新宮ウォーキングコース(ArcGISより作成)

表-1 コースからの立花山眺望

視点場	距離 (km)	仰角 (°)	可視・不可視
A ①太閤水	2.1	9.2	可視
C ②西鉄新宮駅	4.8	4.3	可視
E ③展望公園	4.5	4	可視



図-6 C西鉄新宮駅



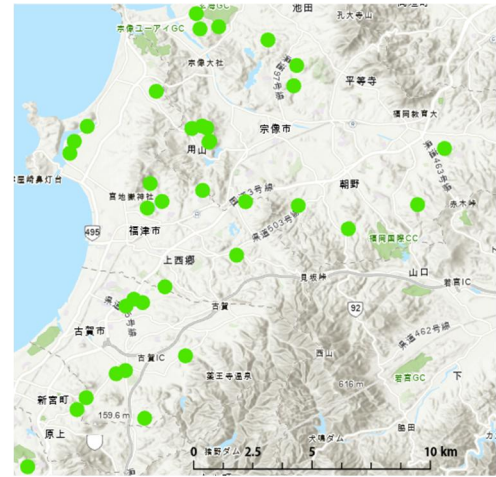
図-7 E展望公園

**(3)再生可能エネルギー**

唐津街道沿道には多くの太陽光パネルが見られた(図-8、表-2)。

表-2 太陽光パネル設置条件

範囲	新宮町～宗像	パネルの数	36箇所
設置箇所	平地が多い	パネルの向き	真南向きが多い
最大面積	147,559 (㎡)	平均値	31,210 (㎡)



● 太陽光パネル

図-8 太陽光パネル設置箇所(Google Earthより)

数も多いが面積も大きく、最大で約14万㎡のものもある。これは「ヤフオク!ドーム」の2つ分である。景観を損なうことと、反射による住民への光害が懸念される。

**4. まとめ**

本研究では、立花山の最適な視点場調査、新宮ウォーキングコースからの立花山眺望、太陽光パネルの設置状況の調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 太閤水は、歴史的拠点として重要であり、立花山を眺望する仰角が最適なことから、視点場として価値が高い。
- 2) 新宮ウォーキングコースは、コース設定に立花山の眺望が反映されていないことが推察された。
- 3) 太陽光パネルは今後景観だけでなく、住民の生活にも支障が出る可能性が懸念される。

今後の課題として、立花山の眺望を考えたウォーキングコース案や、楯の松原について検討する必要がある。

**参考文献**

- 1) 新宮 navi-新宮町ホームページ  
<http://shingu-navi.jp/>
- 2) 樋口忠彦(1975)景観の構造、技報堂出版、168pp